



# シスコアクセスポイントの802.11パラメータ

- [2.4 GHz 無線サポート \(1 ページ\)](#)
- [5 GHz 無線サポート \(3 ページ\)](#)
- [デュアルバンド無線サポートについて \(6 ページ\)](#)
- [デフォルトの XOR 無線サポートの設定 \(6 ページ\)](#)
- [指定したスロット番号に対する XOR 無線サポートの設定 \(GUI\) \(9 ページ\)](#)
- [指定したスロット番号に対する XOR 無線サポートの設定 \(9 ページ\)](#)
- [受信専用デュアルバンド無線サポート \(11 ページ\)](#)
- [クライアントステアリングの設定 \(CLI\) \(13 ページ\)](#)
- [デュアルバンド無線を備えたシスコアクセスポイントの確認 \(15 ページ\)](#)

## 2.4 GHz 無線サポート

### 指定したスロット番号に対する 2.4 GHz 無線サポートの設定

始める前に



(注) ここでは用語「802.11b 無線」または「2.4 GHz 無線」を同じ意味で使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例： Device# enable	特権 EXEC モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 24ghz slot 0 SI</b> 例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 24ghz slot 0 SI</b>	特定のアクセス ポイントのスロット 0 でホストされている専用の 2.4GHz 無線のスペクトルインテリジェンス (SI) を有効にします。詳細については、本ガイドの「スペクトルインテリジェンス」の項を参照してください。  ここで、 <b>0</b> はスロット ID を示しています。
ステップ 3	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 24ghz slot 0 antenna { ext-ant-gain <i>antenna_gain_value</i>   selection [<i>internal</i>   <i>external</i> ] }</b> 例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 24ghz slot 0 antenna selection internal</b>	特定のアクセス ポイントのスロット 0 でホストされている 802.11b アンテナを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ext-ant-gain</b> : 802.11b 外部アンテナゲインを設定します。  <i>antenna_gain_value</i> : 外部アンテナゲイン値を .5 dBi の倍数単位で参照します。有効な範囲は 0 ~ 4294967295 です。</li> <li>• <b>selection</b> : 802.11b アンテナの選択を設定します (内部または外部)。</li> </ul>
ステップ 4	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 24ghz slot 0 beamforming</b> 例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 24ghz slot 0 beamforming</b>	特定のアクセス ポイントのスロット 0 でホストされている 2.4GHz 無線のビームフォーミングを設定します。
ステップ 5	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 24ghz slot 0 channel { <i>channel_number</i>   auto }</b> 例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 24ghz slot 0 channel auto</b>	特定のアクセス ポイントのスロット 0 でホストされている 2.4GHz 無線の高度な 802.11 チャンネル割り当てパラメータを設定します。
ステップ 6	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 24ghz slot 0 cleanair</b> 例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 24ghz slot 0 cleanair</b>	特定のアクセス ポイントのスロット 0 でホストされている 802.11b 無線の CleanAir を有効にします。
ステップ 7	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 24ghz slot 0 dot11n antenna { <i>A</i>   <i>B</i>   <i>C</i>   <i>D</i> }</b> 例 :	特定のアクセス ポイントのスロット 0 でホストされている 2.4 GHz 無線の 802.11n アンテナを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	デバイス# <code>ap name AP-SIDD-A06 dot11 24ghz slot 0 dot11n antenna A</code>	ここで、各変数は次のように定義されます。 <b>A</b> : アンテナポート A。 <b>B</b> : アンテナポート B。 <b>C</b> : アンテナポート C。 <b>D</b> : アンテナポート D。
ステップ 8	<code>ap name ap-name dot11 24ghz slot 0 shutdown</code> 例 : デバイス# <code>ap name AP-SIDD-A06 dot11 24ghz slot 0 shutdown</code>	特定のアクセス ポイントのスロット 0 でホストされている 802.11b 無線を無効にします。
ステップ 9	<code>ap name ap-name dot11 24ghz slot 0 txpower {tx_power_level   auto}</code> 例 : デバイス# <code>ap name AP-SIDD-A06 dot11 24ghz slot 0 txpower auto</code>	特定のアクセス ポイントのスロット 0 でホストされている 802.11b 無線の送信電力レベルを無効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <code>tx_power_level</code> : 送信電力レベル (dBm 単位)。有効な範囲は 1 ~ 8 です。</li><li>• <code>auto</code> : 自動 RF を有効にします。</li></ul>

## 5 GHz 無線サポート

### 指定したスロット番号に対する 5 GHz 無線サポートの設定

始める前に



(注) このドキュメントでは、用語「802.11a 無線」または「5 GHz 無線」を同じ意味で使用されています。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code> 例 :	特権 EXEC モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device# enable	
ステップ 2	<b>ap name ap-name dot11 5ghz slot 1 SI</b> 例 : デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 5ghz slot 1 SI	特定のアクセスポイントのスロット 1 でホストされている専用の 5 GHz 無線のスペクトルインテリジェンス (SI) を有効にします。  ここで、 <b>1</b> はスロット ID を示しています。
ステップ 3	<b>ap name ap-name dot11 5ghz slot 1 antenna ext-ant-gain antenna_gain_value</b> 例 : デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 5ghz slot 1 antenna ext-ant-gain	特定のアクセスポイントのスロット 1 でホストされている 802.11a 無線の外部アンテナゲインを設定します。  <i>antenna_gain_value</i> : 外部アンテナゲイン値を .5dBi の倍数単位で参照します。有効な範囲は 0 ~ 4294967295 です。
ステップ 4	<b>ap name ap-name dot11 5ghz slot 1 antenna mode [omni   sectorA   sectorB]</b> 例 : デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 5ghz slot 1 antenna mode sectorA	特定のアクセスポイントのスロット 1 でホストされている 802.11a 無線のアンテナモードを設定します。
ステップ 5	<b>ap name ap-name dot11 5ghz slot 1 antenna selection [internal   external]</b> 例 : デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 5ghz slot 1 antenna selection internal	特定のアクセスポイントのスロット 1 でホストされている 802.11a 無線のアンテナ選択を設定します。
ステップ 6	<b>ap name ap-name dot11 5ghz slot 1 beamforming</b> 例 : デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 5ghz slot 1 beamforming	特定のアクセスポイントのスロット 1 でホストされている 5 GHz 無線のビームフォーミングを設定します。
ステップ 7	<b>ap name ap-name dot11 5ghz slot 1 channel {channel_number   auto   width [20   40   80   160]}</b> 例 : デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 5ghz slot 1 channel auto	特定のアクセスポイントのスロット 1 でホストされている 5 GHz 無線の高度な 802.11 チャンネル割り当てパラメータを設定します。  ここで、各変数は次のように定義されます。  <i>channel_number</i> : チャンネル番号を指します。有効な範囲は 1 ~ 173 です。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 5ghz slot 1 cleanair</b> 例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 5ghz slot 1 cleanair</b>	特定のアクセス ポイントのスロット 1 でホストされている 802.11a 無線の CleanAir を有効にします。
ステップ 9	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 5ghz slot 1 dot11n antenna {A   B   C   D}</b> 例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 5ghz slot 1 dot11n antenna A</b>	特定のアクセス ポイントのスロット 1 でホストされている 5 GHz 無線の 802.11n アンテナを設定します。  ここで、各変数は次のように定義されます。  <b>A</b> : アンテナ ポート A。 <b>B</b> : アンテナ ポート B。 <b>C</b> : アンテナ ポート C。 <b>D</b> : アンテナ ポート D。
ステップ 10	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 5ghz slot 1 rrm channel <i>channel</i></b> 例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 5ghz slot 1 rrm channel 2</b>	特定のアクセス ポイントのスロット 1 でホストされているチャンネルを変更するもう 1 つの方法です。  ここで、各変数は次のように定義されます。  <i>channel</i> : 802.11h チャンネル アナウンスを使用して作成された新しいチャンネルを指します。有効な範囲は 1 ~ 173 で、173 は、アクセス ポイントを展開している国の有効なチャンネルです。
ステップ 11	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 5ghz slot 1 shutdown</b> 例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 5ghz slot 1 shutdown</b>	特定のアクセス ポイントのスロット 1 でホストされている 802.11a 無線を無効にします。
ステップ 12	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 5ghz slot 1 txpower {<i>tx_power_level</i>   auto}</b> 例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 5ghz slot 1 txpower auto</b>	特定のアクセス ポイントのスロット 1 でホストされている 802.11a 無線を設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>tx_power_level</i> : 送信電力レベルを dBm 単位で示します。有効な範囲は 1 ~ 8 です。</li> <li>• <b>auto</b> : 自動 RF を有効にします。</li> </ul>

## デュアルバンド無線サポートについて

Cisco 2800、3800、4800、および 9100 シリーズの AP モデルなど、AP のデュアルバンド (XOR) 無線は、2.4 GHz または 5 GHz 帯域を利用、または同一 AP 上での両帯域を受動的に監視する機能を提供します。これらの AP は、クライアントに 2.4 GHz および 5 GHz 帯域でサービスを提供するように設定できます。または、メインの 5 GHz 無線がクライアントにサービスを提供しながら、フレキシブル無線で 2.4 GHz 帯と 5 GHz 帯の両方を順次スキャンします。

Cisco AP はデュアル 5 GHz 帯域の動作に対応できるように設計されており、専用のマクロ/マイクロアーキテクチャをサポートする i モデルと、マクロ/マクロをサポートする e および p モデルがあります。無線が帯域間を移動する場合 (2.4 GHz から 5 GHz へ、またはその逆)、無線間で最適な分散を実現するには、クライアントをステアリングする必要があります。AP に 5 GHz 帯の無線が 2 つある場合、それらの無線はマクロセルおよびマイクロセルとして動作します。マクロマイクロクライアントステアリングを使用して、マクロとマイクロ間でクライアントをステアリングします。

XOR 無線のサポートのステアリングは、手動または自動で行うことができます。

- 無線での帯域の手動ステアリング：XOR 無線の帯域は手動でのみ変更できます。
- 無線での帯域の自動ステアリング：XOR 無線の帯域は、サイトの要件に従って帯域をモニターおよび変更するフレキシブルラジオアサインメント (FRA) 機能によって変更されます。



(注) スロット 1 で静的チャンネルが設定されている場合、RF 測定は実行されないため、デュアルバンド無線スロット 0 は 5 GHz 無線でのみ移動し、モニターモードには移動しません。

スロット 1 の無線が無効になっている場合、RF 測定は実行されず、デュアルバンド無線のスロット 0 は 2.4 GHz 無線のみになります。

## デフォルトの XOR 無線サポートの設定

始める前に



(注) デフォルトの無線とは、スロット 0 でホストされている XOR 無線を指します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： デバイス# <b>enable</b>	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 2	<b>ap name ap-name dot11 dual-band antenna ext-ant-gain antenna_gain_value</b> 例： デバイス# ap name ap-name dot11 dual-band antenna ext-ant-gain 2	特定のシスコ アクセス ポイントの 802.11 デュアルバンドアンテナを設定します。  <i>antenna_gain_value</i> : 有効な範囲は 0 ~ 40 です。
ステップ 3	<b>ap name ap-name [no] dot11 dual-band shutdown</b> 例： デバイス# ap name ap-name dot11 dual-band shutdown	特定のシスコ アクセス ポイントでデフォルトのデュアルバンド無線をシャットダウンします。  無線を有効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。
ステップ 4	<b>ap name ap-name dot11 dual-band role manual client-serving</b> 例： デバイス# ap name ap-name dot11 dual-band role manual client-serving	シスコ アクセス ポイントでクライアントサービングモードに切り替えます。
ステップ 5	<b>ap name ap-name dot11 dual-band band 24ghz</b> 例： デバイス# ap name ap-name dot11 dual-band band 24ghz	2.4 GHz 無線帯域に切り替えます。
ステップ 6	<b>ap name ap-name dot11 dual-band txpower {transmit_power_level   auto}</b> 例： デバイス# ap name ap-name dot11 dual-band txpower 2	特定のシスコ アクセス ポイントにおける無線の送信電力を設定します。  (注) FRA 対応無線 (たとえば、9120 AP のスロット 0) が Auto に設定されている場合、この無線で静的チャネルと送信電力を設定することはできません。  この無線で静的チャネルと送信電力を設定する場合は、無線のロールを手動クライアントサービスモードに変更する必要があります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band channel <i>channel-number</i></b>  例： デバイス# ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band channel 2	デュアルバンドのチャンネルを入力します。  <i>channel-number</i> : 有効な範囲は 1 ~ 173 です。
ステップ 8	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band channel auto</b>  例： デバイス# ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band channel auto	デュアルバンドの自動チャンネル割り当てを有効にします。
ステップ 9	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band channel width {20 MHz   40 MHz   80 MHz   160 MHz}</b>  例： デバイス# ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band channel width 20 MHz	デュアルバンドのチャンネル幅を選択します。
ステップ 10	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band cleanair</b>  例： デバイス# ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band cleanair	デュアルバンド無線の Cisco CleanAir 機能を有効にします。
ステップ 11	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band cleanair band {24 GHz   5 GHz}</b>  例： デバイス# ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band cleanair band 5 GHz  デバイス# ap name <i>ap-name</i> [no] dot11 dual-band cleanair band 5 GHz	Cisco CleanAir 機能の帯域を選択します。  Cisco CleanAir 機能を無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。
ステップ 12	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band dot11n antenna {A   B   C   D}</b>  例： デバイス# ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band dot11n antenna A	特定のアクセスポイントの 802.11n デュアルバンドパラメータを設定します。
ステップ 13	<b>show ap name <i>ap-name</i> auto-rf dot11 dual-band</b>  例： デバイス# show ap name <i>ap-name</i> auto-rf dot11 dual-band	シスコ アクセスポイントの自動 RF 情報を表示します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 14	<b>show ap name <i>ap-name</i> wlan dot11 dual-band</b>  例 : デバイス# show ap name <i>ap-name</i> wlan dot11 dual-band	シスコ アクセスポイントの BSSID のリストを表示します。

## 指定したスロット番号に対する XOR 無線サポートの設定 (GUI)

### 手順

ステップ 1 [Configuration] > [Wireless] > [Access Points] の順にクリックします。

ステップ 2 [Dual-Band Radios] セクションで、デュアルバンド無線を設定する AP を選択します。

AP の AP 名、MAC アドレス、CleanAir 機能、およびスロット情報が表示されます。HyperLocation 方式が HALO の場合は、アンテナの PID とアンテナの設計情報も表示されます。

ステップ 3 [Configure] をクリックします。

ステップ 4 [General] タブで、必要に応じて [Admin Status] を設定します。

ステップ 5 [CleanAir Admin Status] フィールドを [Enable] または [Disable] に設定します。

ステップ 6 [Update & Apply to Device] をクリックします。

## 指定したスロット番号に対する XOR 無線サポートの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 : Device# enable	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 2	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band slot 0 antenna ext-ant-gain external_antenna_gain_value</b>  例 :	特定のアクセスポイントのスロット 0 でホストされている XOR 無線のデュアルバンドアンテナを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 dual-band slot 0 antenna ext-ant-gain 2</pre>	<p><i>external_antenna_gain_value</i> : 外部アンテナゲイン値 (5 dBi の倍数単位)。有効な範囲は 0 ~ 40 です。</p>
ステップ 3	<p><b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band slot 0 band {24ghz   5ghz}</b></p> <p>例 :</p> <pre>デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 dual-band slot 0 band 24ghz</pre>	<p>特定のアクセスポイントのスロット 0 でホストされている XOR 無線の現在の帯域を設定します。</p>
ステップ 4	<p><b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band slot 0 channel {<i>channel_number</i>   auto   width [160   20   40   80]}</b></p> <p>例 :</p> <pre>デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 dual-band slot 0 channel 3</pre>	<p>特定のアクセスポイントのスロット 0 でホストされている XOR 無線のデュアルバンドチャンネルを設定します。</p> <p><i>channel_number</i> : 有効な範囲は 1 ~ 165 です。</p>
ステップ 5	<p><b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band slot 0 cleanair band {24Ghz   5Ghz}</b></p> <p>例 :</p> <pre>デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 dual-band slot 0 cleanair band 24Ghz</pre>	<p>特定のアクセスポイントのスロット 0 でホストされているデュアルバンド無線の CleanAir 機能を有効にします。</p>
ステップ 6	<p><b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band slot 0 dot11n antenna {A   B   C   D}</b></p> <p>例 :</p> <pre>デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 dual-band slot 0 dot11n antenna A</pre>	<p>特定のアクセスポイントのスロット 0 でホストされている 802.11n デュアルバンドパラメータを設定します。</p> <p>ここで、各変数は次のように定義されます。</p> <p><b>A</b> : アンテナポート A を有効にします。</p> <p><b>B</b> : アンテナポート B を有効にします。</p> <p><b>C</b> : アンテナポート C を有効にします。</p> <p><b>D</b> : アンテナポート D を有効にします。</p>
ステップ 7	<p><b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band slot 0 role {auto   manual [<i>client-serving</i>   <i>monitor</i>]}</b></p> <p>例 :</p> <pre>デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 dual-band slot 0 role auto</pre>	<p>特定のアクセスポイントのスロット 0 でホストされている XOR 無線のデュアルバンドの役割を設定します。</p> <p>デュアルバンドの役割は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>auto</b> : 無線の役割を自動で選択することを指します。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>manual</b> : 無線の役割を手動で選択することを指します。</li> </ul>
ステップ 8	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band slot 0 shutdown</b> 例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 dual-band slot 0 shutdown</b> デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 [no] dot11 dual-band slot 0 shutdown</b>	特定のアクセスポイントのスロット 0 でホストされているデュアルバンド無線を無効にします。 デュアルバンド無線を有効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。
ステップ 9	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 dual-band slot 0 txpower {<i>tx_power_level</i>   auto}</b> 例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 dual-band slot 0 txpower 2</b>	特定のアクセスポイントのスロット 0 でホストされている XOR 無線のデュアルバンド送信電力を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>tx_power_level</b> : 送信電力レベルを dBm 単位で示します。有効な範囲は 1 ~ 8 です。</li> <li>• <b>auto</b> : 自動 RF を有効にします。</li> </ul>

## 受信専用デュアルバンド無線サポート

### 受信専用デュアルバンド無線のサポートについて

この機能では、デュアルバンド無線を備えたアクセスポイントのデュアルバンド受信専用無線機能を設定します。

このデュアルバンド受信専用無線は、分析、HyperLocation、ワイヤレスセキュリティモニタリング、および BLE AoA\* の専用となります。

この無線は常にモニターモードでの機能を継続するため、3番目の無線でチャンネル設定や *tx-rx* 設定を行うことはできません。

### アクセスポイントの受信専用デュアルバンドパラメータの設定

#### シスコアクセスポイントでの受信専用デュアルバンド無線による CleanAir の有効化 (GUI)

##### 手順

ステップ 1 [Configuration] > [Wireless] > [Access Points] > > の順に選択します。

ステップ 2 [Dual-Band Radios] の設定で、デュアルバンド無線を設定する AP をクリックします。

ステップ 3 [General] タブで、[CleanAir] トグルボタンを有効にします。

ステップ 4 [Update & Apply to Device] をクリックします。

## シスコ アクセスポイントでの受信専用デュアルバンド無線による CleanAir の有効化

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device# enable	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 2	<b>ap name ap-name dot11 rx-dual-band slot 2 cleanair band {24Ghz   5Ghz}</b> 例： デバイス# ap name AP-SIDD-A06 dot11 rx-dual-band slot 2 cleanair band 24Ghz デバイス# ap name AP-SIDD-A06 [no] dot11 rx-dual-band slot 2 cleanair band 24Ghz	特定のアクセスポイントで受信専用 (Rx 専用) デュアルバンド無線による CleanAir を有効にします。  ここで、2 はスロット ID を示しています。  CleanAir を無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。

## シスコ アクセスポイントでの受信専用デュアルバンド無線の無効化 (GUI)

### 手順

ステップ 1 [Configuration] > [Wireless] > [Access Points] > > の順に選択します。

ステップ 2 [Dual-Band Radios] の設定で、デュアルバンド無線を設定する AP をクリックします。

ステップ 3 [General] タブで、[CleanAir Status] トグルボタンを無効にします。

ステップ 4 [Update & Apply to Device] をクリックします。

## シスコ アクセスポイントでの受信専用デュアルバンド無線の無効化

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device# enable	特権 EXEC モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>ap name <i>ap-name</i> dot11 rx-dual-band slot 2 shutdown</b>  例 : デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 dot11 rx-dual-band slot 2 shutdown</b>  デバイス# <b>ap name AP-SIDD-A06 [no] dot11 rx-dual-band slot 2 shutdown</b>	特定のシスコ アクセス ポイントで受信専用デュアルバンド無線を無効にします。  ここで、2 はスロット ID を示しています。  受信専用デュアルバンド無線を有効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。

## クライアント ステアリングの設定 (CLI)

### 始める前に

対応するデュアルバンド無線で Cisco CleanAir を有効にします。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 : デバイス# <b>enable</b>	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  例 : デバイス# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>wireless macro-micro steering transition-threshold balancing-window number-of-clients(0-65535)</b>  例 : デバイス (config)# <b>wireless macro-micro steering transition-threshold balancing-window 10</b>	設定した数のクライアントのマイクロマクロクライアントロードバランシング ウィンドウを設定します。
ステップ 4	<b>wireless macro-micro steering transition-threshold client count number-of-clients(0-65535)</b>  例 : デバイス (config)# <b>wireless macro-micro steering transition-threshold client count 10</b>	移行する最小クライアント数のマクロマイクロクライアントパラメータを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>wireless macro-micro steering transition-threshold macro-to-micro</b> <i>RSSI-in-dBm(-128-0)</i>  例 : デバイス (config) # wireless macro-micro steering transition-threshold macro-to-micro -100	マクロからマイクロへの移行の RSSI を設定します。
ステップ 6	<b>wireless macro-micro steering transition-threshold micro-to-macro</b> <i>RSSI-in-dBm(-128-0)</i>  例 : デバイス (config) # wireless macro-micro steering transition-threshold micro-to-macro -110	マイクロからマクロへの移行の RSSI を設定します。
ステップ 7	<b>wireless macro-micro steering probe-suppression aggressiveness</b> <i>number-of-cycles(-128-0)</i>  例 : デバイス (config) # wireless macro-micro steering probe-suppression aggressiveness -110	抑制するプローブサイクル数を設定します。
ステップ 8	<b>wireless macro-micro steering probe-suppression hysteresis</b> <i>RSSI-in-dBm</i>  例 : デバイス (config) # wireless macro-micro steering probe-suppression hysteresis -5	RSSI でのマクロからマイクロへのプローブを設定します。範囲は -6 ~ -3 です。
ステップ 9	<b>wireless macro-micro steering probe-suppression probe-only</b>  例 : デバイス (config) # wireless macro-micro steering probe-suppression probe-only	プローブ抑制モードを有効にします。
ステップ 10	<b>wireless macro-micro steering probe-suppression probe-auth</b>  例 : デバイス (config) # wireless macro-micro steering probe-suppression probe-auth	プローブおよびシングル認証抑制モードを有効にします。
ステップ 11	<b>show wireless client steering</b>  例 : デバイス # show wireless client steering	ワイヤレスクライアントステアリング情報を表示します。

## デュアルバンド無線を備えたシスコアクセスポイントの確認

デュアルバンド無線によるアクセス ポイントを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
Device# show ap dot11 dual-band summary
```

```
AP Name Subband Radio      Mac      Status Channel Power Level Slot ID Mode
-----
4800    All 3890.a5e6.f360 Enabled (40)* *1/8      (22 dBm)      0   Sensor
4800    All 3890.a5e6.f360 Enabled N/A      N/A           2           Monitor
```

